

● イネ科植物をくらべてみよう

舗装されていない小径の轍(わだち)の間には、よくオオバコなどの踏まれ強い草が生えています。

秋の季節は、そんなところに生えている植物としてイネ科植物が目立ちます。

その代表はカゼクサとオヒシバです。

植物の生育形態を類型化したものを“生育型(せいいくけい)”といますが、生育型は両種とも葉が地際で束になって生える叢生(そうせい)型です。茎や葉が強く根も張っているので抜こうと思ってもなかなか抜けず、踏まれ強い形です。



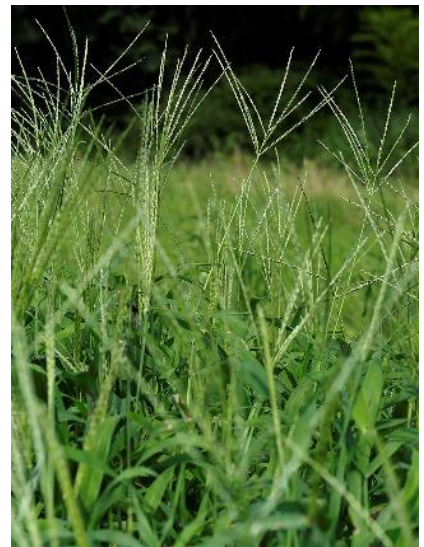
小径にはカゼクサやオヒシバが目立つ



カゼクサ



オヒシバ



メヒシバ

一方、道端のやや踏まれ方の弱いところにはメヒシバが生えています。

メヒシバの生育型もふつつ叢生型に分類されますが、オヒシバとはちょっと違って、節のある茎が地面をはい、各節から根を伸ばし、一節からでも再生します。この生え方は、草取りを頻繁に行う畑地などに適応した形といわれています。（小幡和男）